

Introduction

図1 この絵には何が描かれていますか？



(Winslow Homer,1885)

「この絵には何が描かれていますか？」(図1)と聞かれたら、あなたはどのように説明しますか？ あなたの視線はどのように動きましたか？

一通りみたら、それでは次のような問いかけに答えてみましょう。

- ①この作品の中では何が起きているのでしょうか？
- ②この作品のどこからそういうふうに思ったのですか？
- ③他にもっと発見がありますか？

本稿では、1980年代にニューヨーク近代美術館で開発された世界的に有名なアート鑑賞教育プログラムであるヴィジュアル・シンキング・ストラテジー (visual thinking strategies : VTS) と国内で体験した「対話型鑑賞」の考え方をベースに、アート鑑賞を通じて患者さんに対しての観察力、診断力、共感力、コミュニケーション力などを鍛えるためにアレンジし、医学教育への活用の可能性を探っていきます。

日本ではまだまだ知名度が低いですが、欧米では、このアート教育と医学教育を結びつけるという教育法を取り入れている医科大学は、ハーバー

ド大学医学部をはじめとして、かなりの数に上ります。それらのメリットやカリキュラムをまとめたレビューも報告されています。何より、美しい芸術を楽しみながらトレーニングでき、また、患者さんが相手ではないためリスクなく繰り返し訓練できるところが臨床教育として優れている点です。

患者さんに対する観察力、診断力、共感力、コミュニケーション力などのスキルは、医学生だけでなく、卒業後も医師として鍛え続けていく必要があります。対話型のアート鑑賞はそのためにも非常に役立つものとなっています。

本稿でご紹介するのは次の通りです。

1 アートと医学の意外な関係

- (1) リベラルアーツと医学
- (2) アート鑑賞と医学教育

2 アート鑑賞の臨床への活かし方

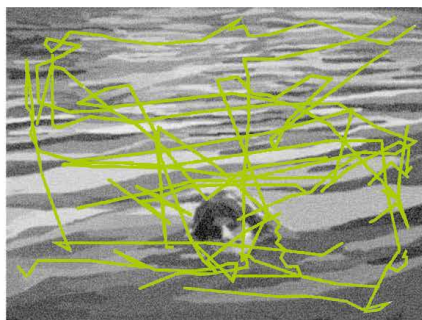
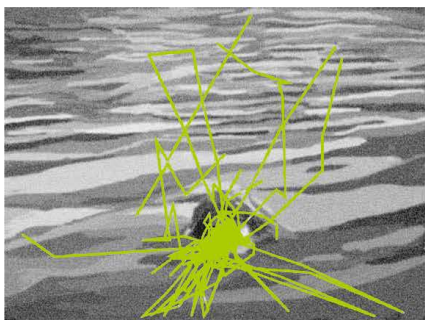
- (3) アートを観察する力が臨床力アップにつながる
- (4) 臨床での観察力/診断力に活かす
- (5) 共感力を高め、患者に歩み寄る
- (6) 組織運営力を高める/燃え尽きないために
- (7) 豊かな文化的感受性を身につける

3 やってみよう！ 対話型アート鑑賞

- (8) 対話型アート鑑賞について
- (9) なぜ対話型か？ 一人では生まれないそのメリットは？
- (10) どこからそう思いましたか？ ーファシリテーション基本の「き」
- (11) 実践！ 対話型アート鑑賞の実際の進め方

と普通の学生たちとの間で、視線の動きはどのような違いが出ているでしょうか。

図3 視線軌跡の比較



左：一般学生群、

右：専門的な美術教育を受けた群

(文献5より作成)

黄緑色の線が視線の動きです。写真自体が、女性(?)が水面からニョキッと顔半分だけのぞかせているインパクトが強い写真なこともありますが、左の写真の一般学生群では女性の顔に視線が集中し、他の部分(特に左右サイド)にほとんど視線が動いていないのがわかります。一方、右の写真の美術教育を受けた群では女性の顔も見つつも、上下左右まんべんなく視線を動かしているのがわかるでしょう。

次に画家マネの描いた絵画作品を観てみましょう(図4)。

図4



(Édouard Manet, 1882)

好きなように観ていいですよ、と言われたら、あなたの視線はどのように動くでしょうか。おそらく真ん中の女性をつぶさに見た後は、手前の酒

瓶に視線が移動していくのではないのでしょうか(参考用に私が最初に見た際の視線の動きを緑の線で表します)。

最初の段階から左上角にあるサーカスであろう女性の足に気づく人はほとんどいないと思います(大型の美術書やインターネット等だと確認しやすいかもしれませんが)。

ただ、もしも「この絵の時代背景や国、状況を推測する」という課題が生まれたとき、自分の読み取れる情報が、単なる「バーの絵」という情報のみなのか、または「サーカスも鑑賞できるような広いホールの中にあるバーの絵」という具体的な情報まで読み取れるのかによって、その問いに挑むために必要な情報量の差としては非常に大きなものになるのではないのでしょうか。さらにもう一枚観てみましょう(図5)。

図5



(Wilhelm Ferdinand Bendz, 1829)

この絵に何が描いてあるか、説明してください、と言うと、学生さんの多くは「足が腫れています」と表現します。

はたして適切な表現でしょうか? もしくは読み取れる情報はすべてでしょうか? この絵をじっくり眺めてみましょう。

向かって左側に大腿部、右側にすね・ふくらはぎがある様子から、人間の下肢の側面からの像が描かれていることは容易に推測できます。筋肉の張り方をみると右足でしょうか。反対側の足は描かれていません。すぐに目が向かうのは、膝の前面が腫大していることでしょうか。非常

(4) 対話型アート鑑賞の実際の進行

対話型アート鑑賞は、実際に自分がじっくり時間をかけて鑑賞した絵を題材にファシリテーションしていくわけですが、あくまで一例としてどのような進行になるのかをご紹介します。

ファシリテーター(以下ファシリ)：まずは誰とも話さず、一人でこの絵を隅々までじっくり観てみましょう。2分間です。それではどうぞ。

(2分後)

ファシリ：それでは観足りない人ももしかしたらいるかもしれませんが、いったんここで時間となります。この絵に描かれていることを、何でもよいのですが、言ってみてください。最初に手を挙げてくださる方はいますか？

参加者一同：……。

ファシリ：というと最初の発言はけっこう難しいかもしれません。どんな当たり前のことでもかまいません。この絵を知らない人に伝えていく想定で話してください。

Aさん：それでは……男性が一人、船の上に乗っている絵でしょうか。

ファシリ：ありがとうございます！最初は勇気がいったと思います。男性……というところからそう思いましたか？

Aさん：(10秒ほど改めて絵を観て考える。その間ファシリは無言で待つ) そうですね、ヒゲが生えているように見えますし、服装もどこか軍服というかそのような感じがします。

ファシリ：そうですね。Aさんは、顔にあるヒゲや服装から男性であると推測してくれました。皆さんはどうでしょう？男性に見える、という解釈でよろしいでしょうか？

一同：(うなずく)

ファシリ：ありがとうございます。今のような感じでぜひどんどんお願いします。